

「原発」都民投票の会

※入会のお申し込みは、Web site<<http://tomintohyo.info/>>の入会受付フォームから。またはメール・FAXで受け付けております。「お名前・ご住所・TEL/FAX・e-mail」をご記入の上、題名を「入会希望」としてメールはweb_team@tomintohyo.info FAXは03-6434-0579へ送信してください。

10月1日「原発」都民投票の会が発足！！

ご存知の通り「原発」都民投票は34万余りの都民の署名を都知事に届けたいが、都議会議員の反対多数という採決による否決に終わり、直接請求に関わった、あるいは注目されていた多くの方が、この運動自体が終わったと思われるのではないか。

しかし、そうではなかった。私たちはすぐ次の行動に向けて話し合いを始めた。条例案否決という事実は、それまで積極的に政治に関わってこなかった私のような一般市民に逆に火をつけたと言っても過言ではなく、有志による度重なる話し合いが行われ、【民主主義の発展・原発をやめられない社会をやめる】という理念の継承という方向性を打ち出した。それが今回の「原発」都民投票の会の発足の原点である。

総会は予算の採決等から始まったが、なんと、会としての出だしの予算は1700円余り。この会がいかにどここの団体からも支援を受けておらず、すべての人が手弁当、つまり「気持ち」で参加しているのがお分かりいただけると思う。共同代表の選出等、各議案の採決はスムーズに進み会は正式にスタートを切った。

その後、静岡・新潟県民投票からの期待を含めた祝辞、原発労働者を息子を持つ方からの手紙が読み上げられ、元請求代表者である上原公子さん、宮台真司さん、みんなで決めよう「原発」

国民投票代表の今井一さんのスピーチ。そして、福島県双葉町から東京へ避難し、署名集めをサポートしていただいた方のスピーチ等、そのどれもが、胸に迫るものがあった。会場の参加者もそれぞれの話しに深く感銘し、勇気をもらっているのが「空気」で分かった。

最後に、土屋トカチ監督が制作中の「原発」都民投票のドキュメンタリー映画の上映が、ご自身の説明も交えて行われた。まだ未完ではあったが、ユーモアを交えた素晴らしいもので、完成が非常に楽しみとなった。

私は、今回「原発」都民投票の会ができたのは、すごく「自然なこと」であると感じる。それは私たちの活動の軌跡を辿っていただければ分かってもらえると思う。

今後はより多くの人と繋がっていき、共に学び、おおいに議論し、政治を、世の中を、私たち主催者ひとり一人が動かしていくという意識をあたり前のように持つていく社会にしていくよう、この会が発展していくことを願ってやまない。

元請求代表者
柳浦彰



共同代表に選出された山木きょう子さん(左)と荒木伸子さん(右)



上原公子さんのスピーチ

入会しました！
なぜ「原発」都民投票の会「なのか」

2011年3月11日、大地が大きく揺れて、ほどなく日本に54基もの原発が乱立されていたことを知った。国策と言えば正当化されるらしいが、国策が愚策でない保証などどこにもない。

忘れもしない6月20日、都議会本会議場。われらがフォトグラファーかねちゃんの望遠レンズには、本会議の最中に歯科治療の冊子を広げる議員の姿があった。一方、都知事は親指を下に向け、「原発」都民投票を愚弄してみせた。どちらもわたしたち都民が選んだ都議であり、都知事だった。こんな選択をしたわたしたちは、愚かではなかったか？もちろん、今までのわたしたちの選択がすべて間違っていたわけではない。真摯に都民と向き合ってくれた都議もいた。ただ、過半数には満たなかったのだ。愚かさに愚かさを重ねて、「原発」都民投票条例案は否決された。政治に無関心であったことをこれほど悔いたことはない。

昨年の12月から2月にかけて、わた

したちは寒空の中、法定署名を集めて回った。ホカロンを背中に貼り付けて、駅前で、スーパーの前で、声を枯らした。自分が別人になったようだった。

時間が経って、少し怒りが収まった頃、このような形で条例案が否定されるのは、むしろ当然のことのように思えてきた。現在の政治に賛成であったなら、直接請求などという面倒な真似をするはずがなかった。議員の中には、都民の声に真摯に耳を傾けてくれる方もあったが、都民の不満をつきつけられた議会が、その不満を否定してみせるのは、むしろ当然のなりゆきだったろう。すると、条例案の否決というのは、ゴールではなく、一つの通過点に過ぎないのではないか？わたしたちは、今までのわたしたちとは違っていた。都議会も、今までの都議会から変わって貰う必要があるだろう。わたしたちの声に耳を傾ける議員に、過半数を取って貰わなければならない。

「原発」都民投票の会。都議会はわたしたちがオソロシイに違いない。静岡県議会も、新潟県議会も、わたしたちをミテいるだろう。仙台女川、北海道泊山口上関、これから署名活動が始まるという噂がある。この川の流れはやがて大河となるだろう。「原発」国民投票がその大河の名前。日本だけの問題ではない。われわれはわれわれの意思を国際社会に示さなければならぬ。わたしたちのしていることは、そういうことだ。

(元受任者 山口あずさ)